

ケーナの音色で癒しを

網走工業・笠谷社長

グループホーム訪ね演奏会

【網走発】ケーナの音色に癒されて。―網走工業㈱



の笠谷俊一社長は二日、網走市内のグループホーム「ファミリーみどり」を慰問。南米の民族楽器ケーナを演奏し、入所者らを楽しませた。写真。ケーナは、ペルー・ボリ

ビア産の竹（カーニャ葦）で作る縦笛。ローズウッドや黒炭、陶器なども材料として用いられ、音質に微妙な変化をもたらす。そのほとんどが手作りで、尺八にも似た独特な音色を奏でる。

グループホーム「ファミリーみどり」での演奏会は、平成十六年から実施。毎年一回は行っており、今回は元且と五月にも実施している。この日は、同所の開設十五周年記念行事に合わせ、演奏会を開催。入所者とその家族、スタッフなど約三十人が参加した。

笠谷氏は、「風化草」「蘇州夜曲」「赤とんぼ」「リンゴの唄」「瀬戸の花嫁」の五曲のほか、地元の読み聞かせ団体による朗読とケーナのソロも実施。入居者は演奏に合わせて歌ったり、体を揺らしたりして楽しいひとときを過ごした。最後に笠谷氏は「これからもお元気で」と声をかけながら入所者一人ひとりと握手し、アンコールにも応えた。

「終わってからのコミュニケーションが大切」という笠谷氏は、演奏会終了後の会食にも参加。普段はあまり話さないお年寄りも、ケーナの音色に刺激されてか、積極的に笠谷氏との会話を楽しんでいた。